



ケータイIP

2012年(平成24年) 11月11日発行

主な内容

- 1~6…特集「いじめ」から子どもたちを守るために一。
- 7…伊賀地域の「高等学校活性化」についての説明会
- 8…12月の相談、まちづくり仕掛け人

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎ 0595-63-7402 ✉ pr@city.nabari.mie.jp 🌐 http://www.city.nabari.lg.jp



## あなたは「いじめ」をどう考えますか？

※「広報なばりメールサポーター」アンケートから抜粋  
全てのアンケート結果は市ホームページでも公開中

- いじめに気付くのが遅れ、娘が1ヵ月ほど学校を休みました。友達同士仲良くしているように見えていても、先生には注意深く見守ってほしいですね。今はカウンセラーや先生、家族と話し合いを重ね、学校へ通えるようになりました。  
—40歳代女性
- 私はクラス全員から無視をされました。先生に相談すると、クラスで報告されてしまい、さらにいじめがひどくなりました。相談された側の意識も大切です。  
—20歳代女性
- 素直に親に相談できたことでいじめが解決しました。親子、家族のコミュニケーションが大切だと思います。  
—30歳代男性
- 学校での子どもの人間関係も複雑で大変。いじめまでもいなくなっても生きにくい世の中になってきていると思います。家族ができる限りその子を理解し、受け入れて、守ってあげることが大切だと感じます。  
—40歳代女性
- 家庭、学校、担任の先生、それぞれが見て見ぬふりをせず、子どもたちに声をかけるようにしたいものです。  
—50歳代男性

▶6ページまで続く

## 特集

# 「いじめ」から子どもたちを守るために一。

全国で「いじめ」による痛ましい事件が後を絶ちません。市や教育委員会は、保護者や地域の皆さんとともに、7月、「いじめを許さない緊急アピール」を発しました。今号ではアピールの内容を振り返りながら、「いじめ」から子どもたちを守るために、学校や、家庭、地域ではいま何ができるのかを考えます。

問 学校教育室(学校教育に関すること) ☎ 63・7882  
子ども家庭室(子ども事例に関すること) ☎ 63・7594



### ●三重県内のいじめ認知件数

※小中学校、高校、特別支援学校の合計



●20~23年度は年間を通じた認知件数。  
24年度は4~9月上旬の認知件数(速報値)  
三重県教育委員会調べ

受け手が苦痛に感じればそれは「いじめ」

滋賀県大津市をはじめ、全国でいじめによる痛ましい事件が立て続けに起きています。

冷やかしの悪口、仲間はずれ、無視、暴力、金品を隠す、盗む…近年は、インターネットや電子メールを使ったいじめもあります。そんな多様化しているいじめですが、文部科学省は、いじめを次のように定義しています。

「一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」

すなわち、受け手が「こんなことされて嫌だな」「言われて辛いな」と苦痛に感じれば、それは「いじめ」なのです。

9月上旬に実施された調査によると、県内のいじめ認知件数は1266件。平成23年度の認知件数の約5倍にも上りました(市内のいじめ認知件数は22件。前年度比11件増)。これは、社会全体でいじめに対する意識が高まっている

中、これまで被害を言い出せなかったり、「これくらいは大丈夫」と言い聞かせていたりした子どもたちが、「これはいじめなんだ」「辛い思いをしているんだ」と、名乗り出した結果なのかもしれません。

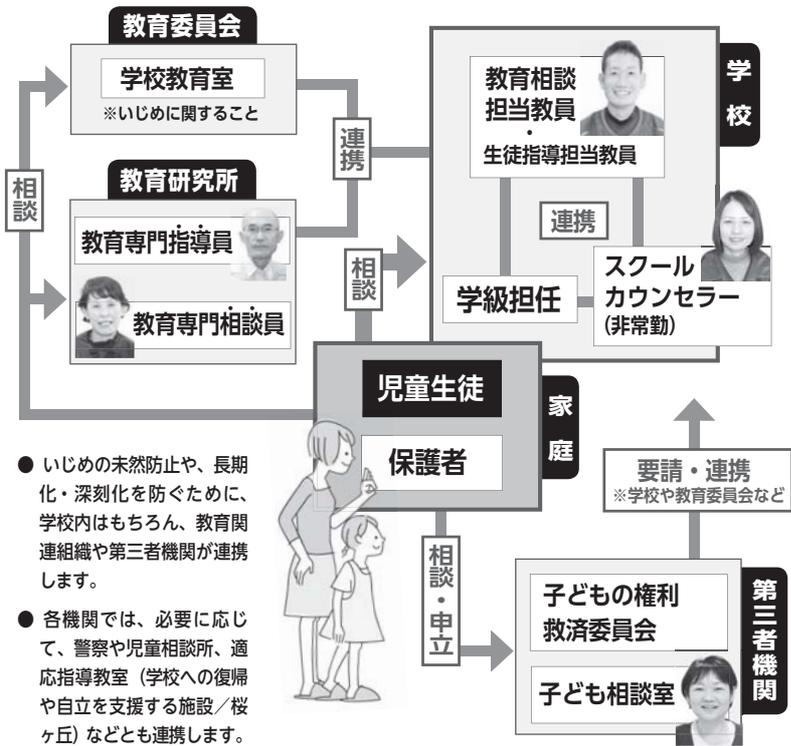
**いじめを許さない緊急アピール**

学校では、いじめの早期発見や児童生徒が相談しやすい環境づくりなどに積極的に取り組んでいきます。しかし、学校の取組みだけでは限界があります。

7月には、市や教育委員会、PTA連合会、地域づくり代表者会議などが、連名で「いじめを許さない緊急アピール」を発し、地域社会全体で「いじめをしない、させない、見逃さない」という強い意志で取り組んでいこうと呼びかけました(チラシを児童生徒の保護者に配布。地域で回覧。市ホームページにも掲載)。学校や家庭、地域など、さまざまな場面で、「いじめ」から子どもたちを守るために、何ができるのかを考え、行動に移していく必要があるのです。

●県内の調査(平成24年9月)で、最も多かったいじめの態様は「冷やかしの悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」で915件。次いで、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」が336件、「仲間はずれ、集団による無視をされる」が300件でした。

## ◎ 学校と関連機関の支援体制



- いじめの未然防止や、長期化・深刻化を防ぐために、学校内はもちろん、教育関連組織や第三者機関が連携します。
- 各機関では、必要に応じて、警察や児童相談所、適応指導教室(学校への復帰や自立を支援する施設/桜ヶ丘)などとも連携します。

### 特集

# 「いじめ」から子どもたちを守るためにー 学校や行政の役割

## いじめを許さない緊急アピール(学校の取組み編)

- 児童生徒が発するどんな小さなサインも見逃さないよう、日頃から丁寧に児童生徒の理解に努め、いじめの未然防止・早期発見に努める。
- いじめを受けた児童生徒を守りきる。
- いじめをした児童生徒が深く反省し、二度といじめをしないように指導する。

※一部抜粋

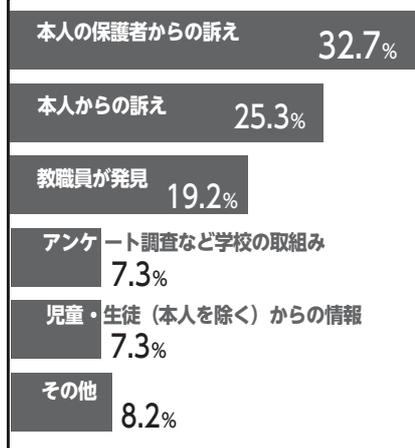


名張中学校のカウンセリング室

**学校全体がチームとして、児童生徒に向き合います**  
いじめは、本人や保護者からの訴えばかりでなく、教職員や児童生徒からの情報やアンケート調査で発見されることも多くあります。市内の小中学校では「Q-U調査(学級満足度調査)」と呼ばれるアンケートを年に2回実施。これは、友人関係や普段の様子などを聞くもので、学級集団の状況や満足度を把握・改善しながら、いじめや不登校などの未然防止、早期発見に努めています。

## いじめ発見のきっかけ(三重県内)

※小中学校、高校、特別支援学校の合計



●平成23年度  
三重県教育委員会調べ



ただ、いじめのケースによっては、発見されにくい場合や、すぐに解決できない場合もあります。そのため、より専門的な立場から、学校を支援する必要があります。名張市教育研究所(教育会館みなる内/すらん台東3)では、子どもとの人間関係づくりなどに関して、教職員に対する研修会を行ったり、学校に「教育専門指導員」などを直接派遣して、問題の解決

### 学校を支援することで子どもたちを守ります

期発見・対応に生かされています。こうした学校生活にかかわる支援を、学級担任が抱え込むのではなく、学校全体がチームとして取り組んでいます。この体制整備を図っているのが、「教育相談担当教員」や「生徒指導担当教員」です。また、市内の7小学校と5中学校に「スクールカウンセラー」を配置(非常勤/臨床心理士など)。「心の専門家」としての立場から、教職員とも連携しています。

### 子ども条例により、第三者機関を設置

教育関連組織のほかにも、弁護士や学識経験者などで構成された第三者機関として「子どもの権利救済委員会」があります。これは、平成19年に施行された「名張市子ども条例」に基づいて設置されている委員会です。いじめや虐待など、子どもの人権侵害の申し立てがあった場合、市や児童相談所、警察などの関係機関に調査を依頼。その結果を審議し、学校などに対して助言や是正の要請をします。また、同条例により、「子ども相談室(総合福祉センター1ふれあい2階/丸之内)」を設置。相談員が、必要に応じて学校などの関係機関とも連携し、子どもたちの悩みの解決を図っています。

●「Q-U調査」(学級満足度調査)は、全国的に取り入れられている心理検査。市では19年度に導入。22年度からは、市内の全児童生徒を対象に年間2回実施。小学校低学年、高学年、中学生用があります。

# 学校

学校現場では、どのようにして子どもたちと向き合っているのでしょうか—?定期的に教師と生徒が面談する「教育相談週間」を設けている名張中学校で話を伺いました。

## 教育相談担当教員

### ● 学校全体で、いじめや不登校に対応できる体制づくりを。

名張中学校 教育相談担当教員



杉江 清

教育相談担当教員として、いじめや不登校など生徒の学校生活上の問題に、学校全体として対応できる体制づくりを担っています。

名張中学校では、各学年に1人ずつ配置された教育相談担当教員が、遅刻や早退が多い、最近元気がない、など、見守りが必要な生徒について、週に1回程度、情報交換を行っています。また、生徒が悩みを抱えていても、それが見えにくい場合もあります。そこで、日ごろの生徒との対話や観察に加え、1学期の終わりに、「教育相談週間」として、担任が生徒一人ひとりと面談。生徒から、あらためて悩み事などを聞く場を設けています。

そして、この面談の前に実施しているのが、「Q・U調査」(学級満足度調査)です。生徒の心の状態を事前に把握することができ、調査結果で気になることがあれば、職員全員で対応方法を協議します。さらに、スクールカウンセラーに助言をいただいたり、生活指導担当教員と連携したりして、たくさん目の目で生徒たちを見守っています。

## スクールカウンセラー

### ● 身近な学校で、不安や悩みなど何でも話ができる場所を。

スクールカウンセラー



山田 忍さん

学校にあるカウンセリング室には、児童生徒や保護者が直接面談に来てくれることもあります。私が、「教職員から勧められて」という場合が多いですね。私は常に学校にいます。情報は欠かせません。支援の方向性を一緒に考えることもあります。もちろん、相談者の秘密は厳守します。

子どもたちは、カウンセリング室を何度も訪れ、信頼関係ができてくると、ようやく話したいことを話せるようになります。だから、子どもたちにとって身近な学校に、こうした場所があることが大切なのだと思います。それに、「どんな人が話を聞いてくれるのか」も気になる場所かもしれません。面談が無ければ、部屋の扉を開けたままにしている、部屋をちらっと覗いてくれる子どももいますね。小中学校間で、切れ目無く児童生徒を支援しようという県の事業があり、現在、名張中学校と、その校区の小学校を担当しています。こうした取り組みも、子どもの理解を深めることにつながっています。

# 支援機関

より専門的な立場から子どもたちや保護者、教職員を支えている教育研究所の指導員や相談員(元教職員)と、子ども相談室の相談員(臨床発達心理士)に話を伺いました。

## 教育研究所

### ● 教職員OB・OGとしての経験を生かして学校を支援しています。



教育専門指導員 河内 照治



教育専門相談員 杉本 由美子

教育研究所の教育専門指導員は、学校に直接入って、授業での教え方やグループ学習の取り入れ方などを教職員に伝えながら、子どもとの関係づくりを指導しています。教育専門相談員は、主に、教育研究所で教職員や保護者などからの相談に応じしています。

いじめの要因はさまざまで、どう対応すればよいかの判断が難しい場合があります。が、いずれの専門員も、教職員のOB・OGであり、長年の経験に基づいて助言できるところが強みです。必要に応じて、社会福祉の専門的な知識や技術をもつ「スクールソーシャルワーカー」や適応指導教室なども連携を図っています。さらに、ほかの教職員OBや教育研究所の家庭教育講座を受講された保護者から、無償で学校を支援いただくなど、教育にかかわる人材を発掘し、多くの人が学校にかかわれるように取り組んでいます。

## 子ども相談室

### ● 第三者だからこそ、引き出せる「本音」があります。



子ども相談室相談員 山本 貴美恵

「子ども相談室」では、18歳以下の子どもたちについてのことで、何でも相談に応じています。平成23年度の相談件数は、297件(22年度比6件増)。子どもからは、学校での人間関係や進路について、保護者からは親子関係についての相談が多いですね。保護者から相談を受けた場合は、了解を得た上で、子どもからも話を聞きます。

心がけているのは、ゆっくりと子どもの話を聞くこと。1年以上かかることもあります。大人の期待に沿う答えを言おうとすることもあるので、言葉の裏側にある気持ちをくみ取りながら、悲しかったり、つらかったりといった「本音」を引き出すことが重要です。保護者や教職員でなく、子どもの日常にかかわらない第三者だから聞きだせる「本音」もあるのです。その上で、問題の解決に向けて、本人の力を引き出せるようにします。本音を話し、自信を取り戻せば、頑張ろうという気持ちが出てきます。本人が望めば、学校などとも連携して問題の解決を図っていきます。

● 「子ども相談室」では、10月から相談員を2人体制とし、相談体制を強化しています。また、市の定めた「子どもの権利週間」(11月21日～27日)のうち、11月25日は、午後1時から5時まで、26日・27日は、午後8時まで時間を延長します。各種相談窓口について詳しくは、6ページをご覧ください。

家庭

子どもの表情や会話、行動にいちめのサインが出ていませんか——。3児の母であり、教育研究所や美旗市民センターで家庭教育講座の講師を務める岡田さんに、家庭での子どもとの向き合い方を伺いました。

「子どもとどう向き合えばいいのか」「すぐに強く叱ってしまう」「兄弟げんかばかりして困っている」。私が講師を務める家庭教育講座の受講者の中には、子育てにさまざまな悩みを抱えている人がいます。私は皆さんに問いかけます。「心にゆとりを持って子どもと接していませんか」と。笑っている親には、子どもも安心して話ができますよね。まずは、親自身が自分を見つめ直すことから始めていただきたいのです。子どもの気持ちを理解する親の心のアンテナを磨くことで、子どもが発する心のサインが見えてくるはずです。実際、講座を受講したく中で、親自身の心が安定してくると、「兄弟げんかが無くなった」「子どもが素直に話してくれるようになった」と、子どもも変わってくるんですね。もちろん、仕事で忙しいという人もいるでしょう。でもね、触れ合う

心のゆとりを大切にしてほしい

時間は量より質なんです。子どもを学校へ送り出す朝、寝る前の少しの間でもいいのです。声かけやスキンシップなど、その子にあった方法で、「愛の充電」をしてあげてください。ただ、どうすれば、心のゆとりを持てるか分からないという人もいます。講座では、受講生同士が交流する時間を設けていますが、「みんな同じことで悩んでいたんだ」と、共感しあえることで、「すごく楽になった」と笑顔を取り戻していきます。このように親が心のゆとりを取り戻せる場が地域が増えていくと、いじめなど子どもにかかわる問題を解決する大きな力になるはずです。

家庭教育講座講師・市社会教育委員 岡田 まり子 さん



特集

「いじめ」から子どもたちを守るために—— 家庭や地域の力

いじめを許さない緊急アピール【家庭・地域の取組み編】

【家庭の取組み】

- わが子の日頃の言動に気を配り、発するシグナルに注意する。
- ダメなことはダメ、できないことはできないとはっきり言う。
- 学校と協力して解決にあたる。

【地域の取組み】

- 多くの目で子どもを見守る。
- あいさつを積極的にしたり、ふれあいを増やしたりと、子どもが大切にされる地域づくりを進める。

※一部抜粋



子育ての楽しさや悩みを共有する「親なびワークショップ」

「食事、温かい雰囲気」「規則正しい生活を」「愛情たっぷり育てたい」。百合が丘小学校に、10月23日、保護者や教職員約50人が集まり、子育てで大切にしたいことなどが話し合われました。これは、子育て講座「親なびワークショップ」のひとつ。和やかな雰囲気の中、子育ての楽しさや悩みを共有し、普段の子育てを見つめ直していただきたいですね。参加者同士でつながりをつくるきっかけにもなるんですよ」と、進行役を務めた原子どもの育ち推進課の東浦重人さん。

「いろいろな人の子育ての方法や向き合い方を知ることができたので、家庭でも生かしていきたい」と話すのは、六佐綾さん。百合が丘小学校のPTA役員でもあり、保護者と教職員が話し合う場「みんなでも語ろう会」(市内の各小中学校でも開催)の企画として、「親なびワークショップ」を取り入れました。「今後も教職員や保護者の皆さんと一緒に、子どもの成長にかかわっていききたいですね」と笑顔で話してくれました。



和やかな雰囲気、子育てについて話し合う

★県教育委員会では、ケータイ・ネット利用の研修を受けた保護者「ネット啓発リーダー」を養成。依頼に応じて、県内の小中学校などで「ネット啓発講座」を開催しています。「同じ保護者の立場なので話がかりやすい」と好評です。

- 持たせたい後も
- 子どもたちのケータイ・ネット利用を見守りましょう
- 持たせる前に
- 家庭で必ず話し合おう
- 持たせる時
- 家庭のルールを決めよう
- メールや掲示板にウソや人を傷つける内容は書き込みません。
- 一口の利用は、○分まで。夜は○時を過ぎたら使いません。ーなど
- 有害サイトなどを見られないようにする「フィルタリングサービス」を利用しましょう

携帯電話(ケータイ)や、インターネット(ネット)で誹謗・中傷などをされる「ネットいじめ」が後を絶ちません。また、ケータイを長時間使用している子どもの多くが「眠れない」「やる気が減った」などの体調の変化を感じています。まずは、家庭からケータイ・ネット対策を始めませんか。





**「学校生活支援ボランティア」として子どもたちにかかわってみませんか?**

「昼休みの見守りをする中で、子どもたちの顔や名前も覚えまし、地域と学校との距離が縮まったように思えます。これからも地域の子どもの成長を見守っていきたい」と河合秀二さん(上写真)。民生委員・児童委員の仲間とともに、週に2回、昼休みに南中学校の校舎を回って、生徒に声をかけています。

ほかに、市内の小中学校では、本の読み聞かせ(下写真)や、学習支援、登下校時の安全サポートなど500人以上の人に「学校生活支援ボランティア」としてご活躍いただいています。



ボランティアは随時募集しています。詳しくは、学校教育室(☎63-7882)へお問い合わせください。

**地域**

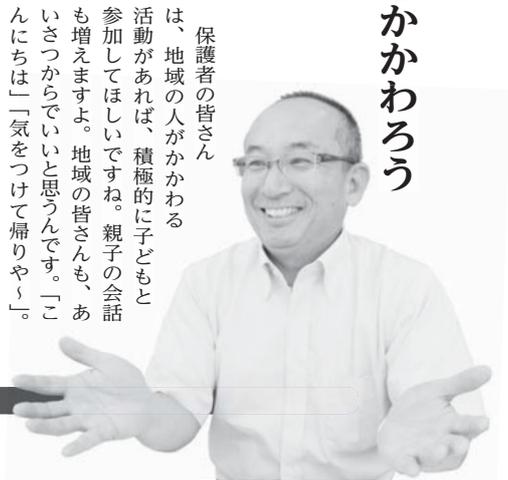
核家族が進み、一人の子どもにかかわる大人の数が減っています。そんな中、地域では何ができるのでしょうか——。地域全体で子どもにかかわろうという「MIK(マイク)運動」を進める中谷さんに伺いました。

**○みんなで子どもとかかわろう**

私たちが行っているMIK(マイク)運動とは、「子どもの様子をよく見て」「言うべきことは言って」「子どもの話はよく聞いて」という三つの行動「見て(M)」「言って(I)」「聞いて(K)」を、学校や家庭、地域などで広げようという取組みです。

私の小さいころは、近所の大人が、優しく褒めてくれたり、厳しく叱ってくれたりしました。子どもながらに、いつも大人に見守られていることを感じていましたね。しかし、最近では、近所の子どもの顔さえ分からないことも多いのが実情です。

そうした中、地域の大人と子どもが触れ合える場が必要だと思っんです。そこで、私たちは、親子で参加できる組みひも作りや、火おこしなどの催しを開催したり、桜まつりやひなち湖紅葉マラソン大会など、さまざまな催しに参加したりしています。



特に、いじめは、早いうちにその芽を摘んだ方がいい。いかに、子どもが大人を信頼して、すぐに相談できるか。親はもちろん、地域の人に相談することもあるでしょう。そのときのためにも、地域の人々で子どもたちにかかわりたいですね。

保護者の皆さんは、地域の人がかかわる活動があれば、積極的に子どもも参加してほしいですね。親子の会話も増えますよ。地域の皆さんも、あいさつからいいと思うんです。「こんにちは」「気をつけて帰りや〜」。こうした一言が重なって、大人と子どもの関係が築かれていくのではないのでしょうか。

**MIK(マイク)運動推進委員会**

**中谷 幸雄 さん**



**地域の大人と子どもの距離を近づける「こころの思い発表会」**

小中学生が、普段の生活の中の喜びや悲しみ、気付きなど、さまざまな「思い」を発表する「こころの思い発表会」。今年で16回目を数えます。「『最近の子どもの何を考えているのか分からない』と言う前に、まず大人が子どもたちのことを知ろうとする必要があるんじゃないかな」と、桔梗が丘自治連合協議会の竹原啓子さん。舞台には、地域内の5つの小中学校から各3人の計15人が立ちます。今年、10月20日に、桔梗が丘公民館で開催され、将来の夢や、家族への感謝、運動会で学んだこと、そして、いじめのことなどについての発表に、温かい拍手が送られました。「今年も、真剣で率直な子どもたちの思いが伝わってきました。発表会を毎年楽しみにしている人もたくさんいて、地域の大人と子どもの距離を近づけるきっかけになっています」と竹原さん。いま、桔梗が丘地域では、世代間交流事業や登下校時の安全パトロールなど、大人と子どもがかかわる活動が活発に繰り返されています。



「最近の子ども」が考えていることを知る機会

**いじめを見逃さないで！子どもたちからのSOS**

- 表情が暗くなり、言葉数が少なくなる。
- 使用のはっきりしないお金を欲しがらる。
- 衣服に汚れや破れが見られる。
- 学校や友達のことを話さなくなる。
- 手や顔などにすり傷や打撲のあとがある。
- 学校に行きたがらない。
- 食欲がなくなったり、体重が減少したりする。
- 急に怒りっぽくなるなど、情緒不安定だ。

**対応方法**

- ・子どもの立場に立つて真剣に話を聴いてください。
- ・自分は味方であること、守りたいという気持ちを伝えてください。
- ・悩み込まずに、学校や相談機関にご相談ください。

相談機関の一覧は6ページ(裏面)に記載しています



切り取って、財布や手帳などに保管しておいてください





## 国津の杜の行事

国はぐくみ工房あらざき ☎62-6920

**コーンスターチ粘土教室 透明感のある色付き粘土で花のリースを作ります。**

日時 11月27日(木) 午前9時30分～正午  
 講師 武田 裕子さん  
 参加費 1,000円  
 定員 10人  
 持ち物 作業がしやすい 服装、タオル、エプロン

**陶芸教室**  
 白磁の土でお正月用の小鉢を作ります。

日時 11月29日(土) 午前9時30分～正午  
 講師 角谷 英明さん  
 参加費 2,800円 定員 12人  
 持ち物 作業がしやすい服装、タオル、エプロン

申込 いずれの教室も11月12日(日)から19日(日)までに、電話で問い合わせ先へ  
 ※先着順。参加者が少ない場合は中止します。

## 店舗主などを対象に開催 「店舗の魅力アップセミナー」

開催日 11月30日(金)  
 場所 桔梗が丘商店会事務所(桔梗が丘商店街内)

◆第1部 対象店舗でアドバイス(午後3時～6時/定員10人)…桔梗が丘商店街の対象店舗において店内レイアウトや陳列など、丁寧で分かりやすいアドバイスをを行い、繁盛店づくりのポイントを体感していただきます。

◆第2部 講義(午後7時～9時/定員20人)…商店街を取り巻く環境やライフスタイルの変化を踏まえ、他市の繁盛実践サポーターの体験談なども織り交ぜながら繁盛店づくりの方向性を学びます。

申込 11月28日(木)までに、電話で問い合わせ先へ  
 ※先着順。参加無料

☎ 商工経済室 ☎ 63-7824

理由がある！ 繁盛するには、

## ボランティア養成講座 「わらべうたとおはなし会」

わらべうたを取り入れた「おはなし会」を開くヒントを学び、本の楽しさを広げませんか。

日時 12月8日(土) 午後1時30分～3時30分  
 場所 市立図書館(桜ヶ丘)  
 定員 40人 ※先着順。参加無料  
 講師 山口 陽子さん(元美和町図書館司書)  
 申込 12月7日(金)までに、電話などで問い合わせ先へ

☎ 市立図書館 ☎ 63-3260

## 地産地消「地元新鮮野菜を使ったお正月料理講習会」

日時 12月7日(金) 午前10時～午後1時  
 場所 名張公民館(上八町)  
 対象 市内在住の人 定員 30人 ※先着順  
 講師 永田 ルミ子さん(管理栄養士)  
 参加費 800円 ※材料費。調理、試食、懇談会があります。主催 名張市消費生活協議会  
 申込 11月27日(日)までに、電話で問い合わせ先へ

☎ 総合窓口センター ☎ 63-7416

## 冬は「ウォームビズ」で あったか節電がいいね!

ウォームビズは、「寒いときには着る」「過度に暖房機器に頼らない」が基本。ひざかけの利用や重ね着をするなどして暖房の温度設定を控えたり(一般的な目安は20℃)、外出の30分前は暖房を消したりと、無理のない範囲で冬の節電にご協力ください。

市では、暖房時の室温は19℃に設定し、ウォームビズを実施中！(3月31日まで)

☎ 環境対策室 ☎ 63-7492

## 「名張ひなち湖紅葉マラソン大会」による交通規制にご協力ください

日時 11月18日(日) 午前8時～午後1時

【通行止め区間】

- 午前8時～午後1時 比奈知ダム堰堤～比奈知湖左岸道路
- 午前10時40分～11時30分 国道368号・天王大橋～横矢橋

☎ 名張市体育協会 ☎ 62-4141

## 田舎の味おばあちゃん講座 「自家製こんにやくづくり」

日時 12月11日(水)・12日(木)  
 【午前の部】9時～【午後の部】1時30分～

場所 農業研修センター(蔵持町芝出)  
 定員 各部16人 ※応募者多数の場合は抽選  
 対象 市内在住の人 参加費 600円 ※材料費  
 講師 名張緑のふれあいグループ会員  
 申込 11月12日(日)から16日(木)までに、住復はがきに「こんにやくづくり希望」、住所、氏名、年齢、連絡先を書いて農業研修センター(〒518-0751 蔵持町芝出6)へ ※連名不可

☎ 農業研修センター ☎ 63-7129

# 伊賀地域の「高等学校活性化」についての説明会を開催します

新しい学校像や高校の統合時期などについての素案を説明します。

☎ 三重県教育委員会 教育総務課 教育改革グループ ☎ 059-224-2951

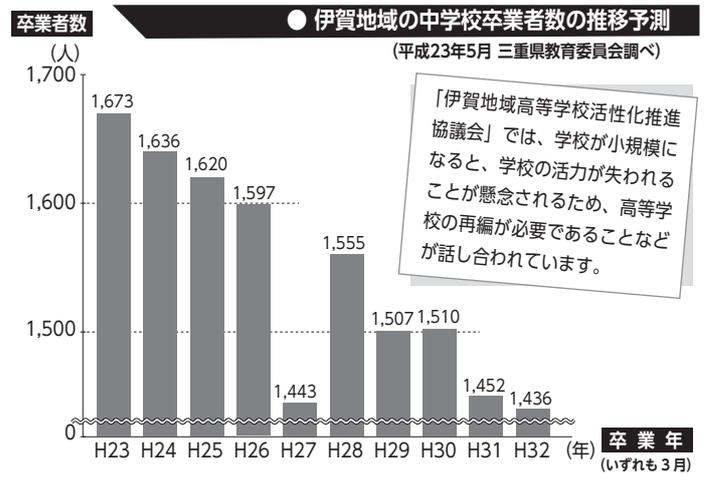
日時	場所
11月20日(木) 午後7時～9時	防災センター2階(鴻之台)
11月24日(日) 午後7時～9時	県伊賀庁舎7階(伊賀市四十九町)

◎申込は不要です。直接会場へお越しください。

伊賀地域では、今後、中学校卒業者が大きく減少することが予測されています。このため、県教育委員会では、地域・PTAの代表者、教育関係者などで構成する「伊賀地域高等学校再編活性化推進協議会」を設置。平成22年度以降、今後の高等学校のあり方が協議されてきました。

今年3月には、県立名張桔梗丘高等学校と県立名張西高等学校を統合するという方向性をまとめ、5月に、市民の皆さんを対象に説明会を開催。ここでの意見などを踏まえて、新たに設置された「伊賀地域高等学校活性化推進協議会」において、さらなる検討が続けられてきました。

そして、今回、新たな高校活性化に向けた素案として、新しい学校像や統合時期などについて説明し、市民の皆さんからのご意見を伺います。



次号予告 平成23年度決算を検証

12月の相談

記載の電話番号は、問い合わせ先です。開催場所(☎)の連絡先とは限りません。

- 弁護士相談 [12月13日(金)午前10時~午後3時]
交通事故相談 [12月20日(金)午後1時~3時15分]
行政相談 [12月20日(金)午後1時~3時]
司法書士相談 [12月21日(土)午後1時~4時]
市民・多重債務相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分]
人権相談 [12月11日(日)午前10時~午後3時]
介護相談 [☎各地域の「まちの保健室」]
年金相談 [12月11日(日)・25日(日)午前10時~午後2時45分]
女性弁護士法律相談 [12月7日(土) 午前10時~正午 午後1時~3時]
女性相談 [第1・3・5週 木・金・土曜日 午後2時~7時]
男性のための相談 [12月13日(日) 午後7時~9時]
メンタルヘルス相談 ※要予約 [12月20日(金)午前10時~正午]
若者就労相談 ※要予約 [12月11日(日) 午後2時~6時]
職業相談 [ハローワークプラザ☎]
就農相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分]
女性相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分]
家庭児童相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分]
育児相談 [火~土曜日 午前9時30分~午後5時]
母子家庭相談 [平日(水曜以外) 午前10時~午後5時]
子どもの発達相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分]
乳幼児健康相談 [12月12日(日)午前9時30分~11時受付]
食生活・健康相談 [12月4日(日)午前9時~11時]
こころの健康相談 [12月26日(日)午後2時~4時]
がん・難病相談 [12月15日(日) 午後1時~4時]
在宅医療相談 [平日 午前9時~午後5時]

15地域 まちづくり仕掛け人

15の地域づくり組織で積極的にまちづくりに取り組む皆さんをリレー形式でご紹介します。

☎ 地域経営室 ☎ 63-7484



ひなち地域ゆめづくり委員会 福井 三千代さん

地域のふれあい
私は、自宅を開放して木彫りや習字の教室を開いています。受講者は10人ほどですが、80歳代の人も来てくれるんです。気が付けば、おしゃべりの方が中心で、和気あいあいと楽しんでもらっています。車を運転できないで、なかなか公民館を利用できない高齢者もいらっしやいますので、近所の皆さんが歩いて行ける気軽な教室でありたいですね。そんな自宅の前は公園になっていて、近所の子どもたちが声でいつもにぎやか。地域

自分ができることを...
若い世代は仕事や子育てでの子どもは地域で守ってあげたいという思いで、学校図書館での読み聞かせや子どもたちの下校を見守るボランティアもしています。だから、子どもたちとも顔なじみ。「下校途中で泥んこになっちゃった」「公園で遊んでたら、のどが渇いてきてん」と、わが家に来て来ます。私を「福井さん！」と呼んでくれる子どもたちと一緒に過ごしていると、なんだか元気がわいてきます。



下校時の見守りをする福井さん

忙しい。ご高齢の皆さんは足腰が痛いなど、思うように動けないこともあります。家の周りをきれいにしたり、近所の人を気にかけたり、子どもたちと接したりと、自分ができることをしているだけですが、それが、みんなの役に立てばうれしいですね。まちづくりって、そんな小さな積み重ねが大切な気がします。

★ Facebook (フェイスブック) を活用して、市の職員が名張の魅力を全国に発信中! その中身を少しだけ、ご紹介します。

Facebookからこんにちは!



B-1 グランプリで「名張牛汁」モ〜烈アピール!

こんにちは! 観光交流室の松本です。10月20日・21日に開催されたご当地グルメの祭典 B-1 グランプリ in 北九州に参加しました! 2日間の来場者数は、61万人! おいしい牛汁を提供し続けた名張牛汁協会のメンバー、行列の前で踊り続けたローカルヒーロー、そして、北九州の中心で名張のPRを叫び続けたおもてなし班... 入賞は逃したものの、モ〜烈なアピールの甲斐あって「牛汁っておいしい!」「名張に行ってみたいわ!」といった声をたくさんいただきました。来年のB-1 グランプリは、愛知県豊川市で開催予定! これからも、名張牛汁への応援をよろしく願います!



http://facebook.com/city.nabari
名張市公式ページをのぞいてみてね!

広告

広告

ハウスクリーニング(キッチン、バス、トイレ、ガラス他)
エアコンクリーニング・床フローリングワックス掛け
ビル清掃管理サービス・家事代行サービス
害虫駆除(白アリ、ゴキブリ、ねずみ、ハチ)
庭木管理サービス・マット モップ 空気清浄器他レンタルサービス

ダスキーンエスプリ

TEL65-8411 名張市新田1249-4

超ひかり TV で
簡単・安心のデジタルライフを!!



株式会社 アドバンスコープ 0595-64-7821